

訓練支援計画書（シラバス）

科名：各科共通

授業科目の区分		授業科目名	必修・選択	開講時期	単位	時間／週
訓練課程	専門課程	キャリア形成概論	必修	Ⅲ・Ⅳ	2	2
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	人文科学					
担当教員		曜日・時限	教室・実習場		備考	
各科担当教員		水・2限	教室			

授業科目に対応する業界・仕事・技術

どの業界・仕事においても生涯を通じた就業力として必要な知識

授業科目の訓練目標

授業科目の目標	No	授業科目のポイント
学生自身が主体性を持って自分自身の能力や特性にあわせたキャリア形成を行うことの必要性や、グローバル社会におけるキャリア形成の考え方について、課題等を通じて習得する。	①	キャリア形成の概要について知っている。
	②	エンプロイアビリティの概要について知っている。
	③	キャリアプランの概要について知っている。
	④	キャリア形成の6ステップについて知っている。
	⑤	ジョブ・カードの作成について知っている。
	⑥	キャリアプランの事例について知っている。
	⑦	ロジカルライティングの概要について知っている。
	⑧	コミュニケーション技術について知っている。
	⑨	
	⑩	

授業科目受講に向けた助言

予備知識、技能・技術	特に必要ありません。
授業科目についての助言	「終身雇用」「年功序列」といった日本特有の雇用慣行が失われていく中、これから就職活動を行い自分の適性に合った就職先を選択していくために、今後の自分の方向性を考えていくことは大切です。これからのキャリア（人生）を考えていくためのスタートとなる授業科目になります。自分で学習することはもちろん、わからないことはどんどん質問し、しっかり身につけましょう。また、進学・就職活動対策として履歴書・エントリーシート（ES）の書き方、自己PR書の書き方、面接対策、試験対策は常に行ってください。進路選択については進路担当者の助言のみならず、父兄にも相談し協力を得て、常に検討してください。
教科書および参考書	教科書：自己分析からはじめる就職活動 マイナビオフィシャル就活BOOK 史上最強SPI&テストセンター
授業科目の発展性	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">職業社会概論Ⅰ</div> <div style="font-size: 2em;">—</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">キャリア形成概</div> <div style="font-size: 2em;">—</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">職業社会概論</div> </div>

評価の割合

指標・評価割合	評価方法	試験	小テスト	レポート	制作物 (ジョブカード)	成果発表	その他 (就職活動)	合計
					30	40		30
評価割合	授業内容の理解度							
	技能・技術の習得度							
	コミュニケーション能力							
	プレゼンテーション能力							
	論理的な思考力・推論能力							
	取り組む姿勢・意欲							
主体性・協調性								

週	授業の内容	授業方法	訓練課題 予習・復習
1・2週	ガイダンス 1. キャリア形成 (1) キャリア形成とは 2. エンプロイアビリティ (1) グローバル時代のエンプロイアビリティ ① 企業に求められる人材とは ② 仕事の変化に対応できる能力 ③ 前へ踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力	講義	キャリア形成とエンプロイアビリティについて復習をしてください。
3・4週	3. キャリアプランニング (1) キャリアプランの概要 (2) キャリア形成の6ステップ ① 自己理解 ② 仕事理解 ③ 啓発的経験 ④ キャリア選択に係る意思決定 ⑤ 方策の実行 ⑥ 仕事への適応 (3) キャリアプランの作成 グローバル時代に求められるキャリア形成プラン	講義	キャリアプランニングについて復習をしてください。
5・6週	(4) ジョブ・カードの作成 ① ジョブ・カードとは ② ジョブ・カードの作成 4. ケーススタディ (1) キャリアプランの事例研究	講義	ジョブ・カードの作成について復習をしてください。
7・8週	(1) キャリアプランの事例研究	講義	キャリアプランの事例について復習をしてください。
9・10週	(1) キャリアプランの事例研究 5. 論理的思考 (1) ロジカルライティング ① 論理的文章の読み方	講義	論理的文章の読み方について復習をしてください。
11・12週	② 論理的文章の組立て方	講義	論理的文章の組立て方について復習をしてください。
13・14週	③ 論理的文章の書き方	講義	論理的文章の書き方について復習をしてください。
15・16週	6. コミュニケーション技術 (1) 「書く」コミュニケーション技術	講義	「書く」コミュニケーション技術について復習をしてください。
17・18週	(1) 「書く」コミュニケーション技術 評価	講義 評価	この授業科目で学んだこと全体の復習をしてください。

訓練支援計画書（シラバス）

科名：各科共通

授業科目の区分		授業科目名	必修・選択	開講時期	単位	時間／週
訓練課程	専門課程	職業社会概論 I	必修	I・II	2	2
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	社会科学					
担当教員		曜日・時限	教室・実習場		備考	
各科担当教員		水・2時限	教室			
授業科目に対応する業界・仕事・技術						
就職・就業するための仕事理解 どの業界・仕事においても必要なビジネスマナー						
授業科目の訓練目標						
授業科目の目標		No	授業科目のポイント			
生涯を通じて、仕事に就くことの意味と仕事に取り組む姿勢を考え、社会的通念、技術者倫理および諸外国の文化について理解し、社会人として必要になるスキルや就職等に必要となる素養についての知識を習得する。		①	「働く」意味について知っている。			
		②	社会のルールについて知っている。			
		③	技術者倫理について知っている。			
		④	ビジネスマナーについて知っている。			
		⑤	コミュニケーション技術について知っている。			
		⑥				
		⑦				
		⑧				
		⑨				
		⑩				

授業科目受講に向けた助言	
予備知識、技能・技術	一般教育科目「キャリア形成概論」で学んだ内容を見直しておくことをお勧めします。
授業科目についての助言	本教科では、就職や進学に必要な自己分析を、ジョブカードを用いて行います。就職や進学対策になりますので積極的に取り組んでください。さらに、SPIや一般常識試験など、入社試験対策も行いますので、必ず予習や復習をしてください。 また、進路担当者の助言のみならず、父兄にも相談し協力を得て、進路を選択してください。
教科書および参考書	教科書：自己分析からはじめる就職活動 マイナビオフィシャル就活BOOK 史上最強SPI&テストセンター
授業科目の発展性	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">職業社会概論 I</div> —— <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">キャリア形成概論</div> —— <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">職業社会概論 II</div> </div>

評価の割合								
指標・評価割合	評価方法	試験	小テスト	レポート	制作物 (ジョブカード)	成果発表	その他	合計
					30	40		30
評価割合	授業内容の理解度							
	技能・技術の習得度							
	コミュニケーション能力							
	プレゼンテーション能力							
	論理的な思考力・推論能力							
	取り組む姿勢・意欲							
	主体性・協調性							

週	授業の内容	授業方法	訓練課題 予習・復習
1・2週	ガイダンス 1. 「働く」意味 (1) 「働く」という意味 (2) 「自己実現」という意味 2. 社会のルール (1) 社会の動向	講義	「働く」意味について復習をしてください。
3・4週	(2) ノーマライゼーション (3) 労働者の動向 (4) 職業社会における社会的通念	講義	社会のルールについて復習をしてください。
5・6週	(5) 社会人に求められるビジネススキル (6) 分業と労働生産性 (7) グローバル社会の現実（修了生の講話）	講義	社会のルールについて復習をしてください。
7・8週	(8) 第4次産業革命の概要（AI・ビッグデータ等） 3. 技術者倫理 (1) 技術者倫理とは	講義	第4次産業革命の概要について復習をしてください
9・10週	(1) 技術者倫理とは (2) 技術者の役割と責任	講義	技術者倫理について復習をしてください。
11・12週	(2) 技術者の役割と責任 4. ビジネスマナー (1) 商慣行と社会的常識（日本と諸外国）	講義	技術者倫理について復習をしてください。
13・14週	(2) 日本におけるビジネスマナー (3) 諸外国への理解 ① 諸外国の習慣 ② 諸外国の経済状況 ③ 諸外国で絶対にしてはいけない事など	講義	ビジネスマナーについて復習をしてください。
15・16週	5. コミュニケーション技術 (1) 「話す」コミュニケーション技術 (2) 「聞く」コミュニケーション技術	講義	コミュニケーション技術について復習をしてください。
17・18週	(3) 「応答する」コミュニケーション技術 評価	講義 評価	この授業科目で学んだこと全体の復習をしてください。

訓練支援計画書（シラバス）

別添7

科名：各科共通

授業科目の区分		授業科目名	必修・選択	開講時期	単位	時間／週
訓練課程	専門課程	職業社会概論Ⅱ	選択	5・8期	2	2
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	社会科学					
担当教員		曜日・時間	教室・実習場		備考	
各科教員		水曜・2時間	教室			
授業科目に対応する業界・仕事・技術						
職業社会概論Ⅰに引き続き、進路を選択し、決定するための科目です。						
授業科目の訓練目標						
授業科目の目標		No	授業科目のポイント			
進学・就職活動スケジュールを再検討し、進路に必要な各種資料の作成および対策を行います。また、挨拶などのビジネスマナーを習得し、社会人として必要不可欠な事項を把握します。	①	進路面談による進学・就職活動スケジュールの確認および再検討				
	②	進学・就職面接対策、試験対策、書類作成				
	③	SPI・一般教養模擬試験による就職対策				
	④	就職セミナー				
	⑤	進学先や就職先に出されている課題の実施				
	⑥	挨拶、お辞儀、服装、入退室、電話対応、ビジネスマナーの習得				
	⑦					
	⑧					
	⑨					
	⑩					

授業科目受講に向けた助言	
予備知識・技能技術	ジョブカード等を用いた自己分析ができていること。
授業科目についての助言	進学・就職対策として履歴書・自己PR書の書き方、面接対策、試験対策は常に行ってください。学校推薦の場合には進路担当者を介する必要があるため、進路担当者に進捗状況を常に報告してください。また、社会人として必要不可欠な「挨拶・お辞儀」などの礼儀は授業内のみならず、常に行ってください。
教科書および参考書	教科書：自己分析からはじめる就職活動 マイナビオフィシャル就活BOOK 史上最強SPI&テストセンター
授業科目の発展性	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">職業社会概論Ⅰ</div> <div style="font-size: 2em;">—</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">キャリア形成概論</div> <div style="font-size: 2em;">—</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">職業社会概論Ⅱ</div> </div>

評価の割合								
指標・評価割合	評価方法	試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	合計
	評価割合	授業内容の理解度						100
技能・技術の習得度								
コミュニケーション能力							20	
プレゼンテーション能力								
論理的な思考力・推論能力							10	
取り組む姿勢・意欲							60	
主体性・協調性							10	

訓練支援計画書（シラバス）

科名：各科共通

授業科目の区分		授業科目名	必修・選択	開講時期	単位	時間／週
訓練課程	専門課程	数学	必修	1・2期	2	2
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	自然科学					
担当教員		曜日・時限	教室・実習場		備考	
部外講師			教室			
授業科目に対応する業界・仕事・技術						
業界・業種を問わず必要とされる基礎技術						
授業科目の訓練目標						
授業科目の目標	No	授業科目のポイント				
実践技術者として、専門領域において必要となる基礎的な数学及び計算法についての知識を習得する。	①	技術者に必要な数式と計算法の概要について知っている。				
	②	三角関数について知っている。				
	③	指数について知っている。				
	④	対数について知っている。				
	⑤	微分係数について知っている。				
	⑥	導関数について知っている。				
	⑦	不定積分について知っている。				
	⑧	定積分について知っている。				
	⑨					
	⑩					

授業科目受講に向けた助言	
予備知識・技能技術	高校で学んだ「数学」の知識を見直しておくことをお勧めします。
授業科目についての助言	高校の数学で三角関数や微分積分などを学び、計算の仕方やグラフの描き方などは理解してきたと思いますが、その数式や関数などが、どのような概念・原理に基づいているかについては、あまり把握してこなかったのではないかと思います。この授業科目では、これから実践技術者として活躍していくうえで必要な数学を原理から学んでいきますので、高校までの暗記型の学習ではなく、原理に基づいて勉強し、わからないことは質問していき、身につけていきましょう。
教科書および参考書	Ability大学生の数学リテラシー（共立出版）
授業科目の発展性	<div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">数学</div> — <div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">数学演習</div>

評価の割合								
指標・評価割合	評価方法	試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	合計
評価割合	授業内容の理解度	70	15	15				100
	技能・技術の習得度	80	15	5				
	コミュニケーション能力							
	プレゼンテーション能力							
	論理的な思考力・推論能力							
	取り組む姿勢・意欲			5				
	主体性・協調性			5				

週	授業の内容	授業方法	訓練課題 予習・復習
1・2週	ガイダンス 1. 実用数学 (1) 技術者に必要な数式と計算法	講義	実用数学について復習をしてください。
3・4週	(1) 技術者に必要な数式と計算法	講義	実用数学について復習をしてください。
5・6週	2. 三角関数 (1) 三角比 (2) 正弦・余弦定理	講義	三角関数について復習をしてください。
7・8週	(3) 加法定理	講義	三角関数について復習をしてください。
9・10週	3. 指数・対数 (1) 指数関数 (2) 対数関数	講義	指数・対数について復習をしてください。
11・12週	(3) 自然対数と常用対数	講義	指数・対数について復習をしてください。
13・14週	4. 微分 (1) 微分係数	講義	微分について復習をしてください。
15・16週	(2) 導関数 5. 積分 (1) 不定積分	講義	微分・積分について復習をしてください。
17・18週	(2) 定積分 評価	講義 評価	この授業科目で学んだこと全体の復習をしてください。

訓練支援計画書（シラバス）

科名：各科共通

授業科目の区分		授業科目名	必修・選択	開講時期	単位	時間/週
訓練課程	専門課程	物理	必修	3・4期	2	2
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	自然科学					
担当教員		曜日・時限	教室・実習場		備考	
外部講師			教室			
授業科目に対応する業界・仕事・技術						
業界・業種を問わず必要とされる基礎技術						
授業科目の訓練目標						
授業科目の目標	No	授業科目のポイント				
実践技術者として、専門領域において必要となる基礎的な物理についての知識を習得する。	①	S I 単位と工学単位について知っている。				
	②	力の合成・分解について知っている。				
	③	平行力（偶力）について知っている。				
	④	力のモーメントについて知っている。				
	⑤	速度と加速度について知っている。				
	⑥	運動量と力積について知っている。				
	⑦	位置エネルギーと運動エネルギーについて知っている。				
	⑧	エネルギー保存則について知っている。				
	⑨	直流電流・電圧について知っている。				
	⑩	交流電流・電圧について知っている。				

授業科目受講に向けた助言	
	高校で学んだ「物理」の知識を見直しておくことをお勧めします。
授業科目についての助言	物体の運動などの自然現象を数学的に記述する方法を学びます。その現象を表現するために、物理量単位などの概念を理解し、SI単位系や工学単位についても使いこなせるようになりましょう。
教科書および参考書	アビリティ物理 物体の運動
授業科目の発展性	<div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">物理</div> — <div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">物理演習</div>

評価の割合								
指標・評価割合	評価方法	試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	合計
	評価割合		80	20				
授業内容の理解度		80	20					
技能・技術の習得度								
コミュニケーション能力								
プレゼンテーション能力								
論理的な思考力・推論能力								
取り組む姿勢・意欲 主体性・協調性								

週	授業の内容	授業方法	訓練課題 予習・復習
1・2週	ガイダンス 1. 単位と基本定数 (1) SI単位 (2) 工学単位	講義	単位と基本定数について復習をしてください。
3・4週	(2) 平行力 (偶力)	講義	静力学について復習をしてください。
5・6週	(3) 力のモーメント 3. 運動学 (1) 速度と加速度	講義	静力学について復習をしてください。
7・8週	(2) 運動量と力積	講義	運動学について復習をしてください。
9・10週	(3) 各種運動	講義	運動学について復習をしてください。
11・12週	4. 仕事とエネルギー (1) 仕事の定義 (2) 位置エネルギーと運動エネルギー	講義	位置エネルギーと運動エネルギーについて復習をしてください。
13・14週	(2) 位置エネルギーと運動エネルギー (3) エネルギー保存則	講義	位置エネルギーと運動エネルギーについて復習をしてください。
15・16週	(3) エネルギー保存則 5. 電磁気学 (1) 直流電流・電圧	講義	エネルギー保存則と電磁気学について復習をしてください。
17・18週	(2) 交流電流・電圧 評価	講義 評価	この授業科目で学んだこと全体の復習をしてください。

訓練支援計画書（シラバス）

科名：各科共通

授業科目の区分		授業科目名	必修・選択	開講時期	単位	時間／週
訓練課程	専門課程	数学演習	必修	3・4期	2	2
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	自然科学					
担当教員		曜日・時限	教室・実習場		備考	
外部講師			教室		選択必修科目	
授業科目に対応する業界・仕事・技術						
業界・業種を問わず必要とされる基礎技術						
授業科目の訓練目標						
授業科目の目標	No	授業科目のポイント				
実践技術者として、専門領域において必要となる基礎的な数学及び計算法についての知識を習得する。	①	三角関数の計算法について知っている。				
	②	指数関数の計算法について知っている。				
	③	対数関数の計算法について知っている。				
	④	微分係数と導関数の計算法について知っている。				
	⑤	不定積分と定積分の計算法について知っている。				
	⑥	場合の数の計算法について知っている。				
	⑦	確率の計算法について知っている。				
	⑧	数列の計算法について知っている。				
	⑨	ベクトルと複素数の概要について知っている。				
	⑩					

授業科目受講に向けた助言	
予備知識・技能・技術	一般教育科目「数学」で学んだ内容を見直しておくことをお勧めします。
受講に向けた助言	一般教育科目「数学」で、数学について概念や原理から学んだところですが、数学は最終的には計算になります。この授業科目で、実際に頭を使い手を動かして演習・復習を重ねることで確実に身につけるようにしてください。わからないことは質問をして、積み残しがないようにしましょう。
教科書および参考書	テキスト：自作テキスト
授業科目の発展性	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">数学</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">—</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">数学演習</div> </div>

評価の割合								
指標・評価割合	評価方法	試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	合計
	評価割合		80	20				
授業内容の理解度		80	20					
技能・技術の習得度								
コミュニケーション能力								
プレゼンテーション能力								
論理的な思考力・推論能力								
取り組む姿勢・意欲								
主体性・協調性								

週	授業の内容	授業方法	訓練課題 予習・復習
1・2週	ガイダンス 1. 実用数学 (1) 技術者に必要な数式と計算法 2. 数学演習 (1) 三角関数 ① 三角比	講義	三角関数の計算法について復習をしてください。
3・4週	② 正弦・余弦定理 ③ 加法定理	講義	三角関数の計算法について復習をしてください。
5・6週	(2) 指数関数 ① 指数関数 ② 対数関数	講義	指数関数の計算法について復習をしてください。
7・8週	(3) 微分・積分 ① 微分係数と導関数	講義	微分係数と導関数の計算法について復習をしてください。
9・10週	② 不定積分と定積分	講義	不定積分と定積分の計算法について復習をしてください。
11・12週	(4) 場合の数と確率 ① 順列・組み合わせ ② 二項定理	講義	場合の数について復習をしてください。
13・14週	③ 確率の計算 ④ 期待値	講義	確率と期待値について復習をしてください。
15・16週	(5) 数列 ① 数列とその和 ② 色々な数列	講義	数列について復習をしてください。
17・18週	(6) ベクトルと複素数 ① 平面上のベクトル ② 直交座標 ③ 極座標 評価	講義 評価	この授業科目で学んだこと全体の復習をしてください。

訓練支援計画書（シラバス）

科名：各科共通

授業科目の区分		授業科目名	必修・選択	開講時期	単位	時間／週
訓練課程	専門課程	英語 I	選択	1・2期	2	2
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	外国語					
担当教員		曜日・時限	教室・実習場		備考	
外部講師			教室			
授業科目に対応する業界・仕事・技術						
業界・業種を問わず必要とされる基礎技術						
授業科目の訓練目標						
授業科目の目標		No	授業科目のポイント			
日常英会話及びビジネス英会話ができる基礎能力を習得し、併せて英文読解の基礎能力を習得する。		①	日常英会話の一般的な表現について知っている。			
		②	ビジネス英会話における挨拶・自己紹介について知っている。			
		③	ビジネス英会話における電話対応について知っている。			
		④	ビジネス英会話における会社訪問について知っている。			
		⑤	工業英語における英文マニュアルの読解について知っている。			
		⑥	工業英語における英字新聞の読解について知っている。			
		⑦	工業英語におけるホームページの読解について知っている。			
		⑧				
		⑨				
		⑩				

授業科目受講に向けた助言	
予備知識・技能技術	高校で学んだ「英語」の知識を見直しておくことをお勧めします。
授業科目についての助言	これからの社会はさらに国際化が進み、どの分野の技術者であっても更なる英語力が必要とされる時代となっています。この授業科目では、業界を問わず社会で必要とされる日常英会話並びにビジネス英会話の基礎を身につけ、英文による技術的文献の読解に必要な英語力の基礎を養うことを目的としています。 基本の4技能（聞く、話す、読む、書く）の向上を意識しながら積極的に学び、就職時に役立つことを期待します。
教科書および参考書	Our Home the Earth（現代の科学と地球環境）（成美堂）
授業科目の発展性	<div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; gap: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px 10px;">英語 I</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px 10px;">英語 II</div> </div>

評価の割合								
指標・評価割合	評価方法	試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	合計
	評価割合		80	20				
授業内容の理解度		40	10					
技能・技術の習得度								
コミュニケーション能力		20						
プレゼンテーション能力		20						
論理的な思考力・推論能力				10				
取り組む姿勢・意欲								
主体性・協調性								

週	授業の内容	授業方法	訓練課題 予習・復習
1週	ガイダンス 1. 日常英会話 (1) 日常表現	講義	日常英会話について復習をしてください。
2週	(2) 英会話で表現	講義	日常英会話について復習をしてください。
3週	(3) 各場面での英会話 2. ビジネス英会話 (1) ビジネス場面での英会話 ① 挨拶・自己紹介	講義	ビジネス英会話について復習をしてください。
4週	② 電話対応	講義	ビジネス英会話について復習をしてください。
5週	③ 会社訪問	講義	ビジネス英会話について復習をしてください。
6週	④ リスニング	講義	ビジネス英会話について復習をしてください。
7週	3. 英文読解 (1) 工業英語 ① 英文マニュアルの読解	講義	工業英語について復習をしてください。
8週	① 英文マニュアルの読解 ② 英字新聞・ホームページ読解	講義	工業英語の概要について復習をしてください。
9週	② 英字新聞・ホームページ読解 評価	講義 評価	この授業科目で学んだこと全体の復習をしてください。

訓練支援計画書（シラバス）

科名：各科共通

授業科目の区分		授業科目名	必修・選択	開講時期	単位	時間／週
訓練課程	専門課程	英語Ⅱ	選択	3・4期	2	2
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	外国語					
担当教員		曜日・時限	教室・実習場		備考	
外部講師			教室			
授業科目に対応する業界・仕事・技術						
業界・業種を問わず必要とされる基礎技術						
授業科目の訓練目標						
授業科目の目標		No	授業科目のポイント			
①現代社会の問題（環境、経済、文化など）について英文を読み考える。 ②小論文などで書く力を養う。		①	現代社会の問題について考える			
		②	英文を読んで解釈する			
		③	英語と日本語で考え表現する			
		④				
		⑤				
		⑥				
		⑦				
		⑧				
		⑨				
		⑩				

授業科目受講に向けた助言	
予備知識・技能技術	一般教育科目「英語Ⅰ」で学んだ内容を見直しておくことをお勧めします。
授業科目についての助言	これからの社会はさらに国際化が進み、どの分野の技術者であっても更なる英語力が必要とされる時代となっています。この授業科目では、業界を問わず社会で必要とされる日常英会話並びにビジネス英会話の基礎を身につけ、英文による技術的文献の読解に必要な英語力の基礎を養うことを目的としています。基本の4技能（聞く、話す、読む、書く）の向上を意識しながら積極的に学び、就職時に役立つことを期待します。
教科書および参考書	Our Home the Earth（現代の科学と地球環境）（成美堂）
授業科目の発展性	<div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; gap: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">英語Ⅰ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">英語Ⅱ</div> </div>

評価の割合								
評価方法		試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	合計
評価割合	指標・評価割合	80	20					
	授業内容の理解度	40	10					
	技能・技術の習得度							
	コミュニケーション能力	20						
	プレゼンテーション能力	20						
	論理的な思考力・推論能力		10					
	取り組む姿勢・意欲							
	主体性・協調性							

週	授業の内容	授業方法	訓練課題 予習・復習
1週	Unit(14) ①スキット練習 ②DNAについて学ぶ	講義 演習 質疑	①自分の考えを少しでも表現できるようにする。 ②生命について興味を持つ
2週	Unit(14) ①" ②"	講義 演習 質疑	①自分の考えを少しでも表現できるようにする。 ②生命について興味を持つ
3週	Unit(14) ①" ②"	講義 演習 質疑	①自分の考えを少しでも表現できるようにする。 ②生命について興味を持つ
4週	Unit(14) ①" ②"	講義 演習 質疑	①自分の考えを少しでも表現できるようにする。 ②生命について興味を持つ
5週	Unit(18) ①" ② 遺伝子について学ぶ	講義 演習 質疑	①" ②最新テクノロジーを知る
6週	Unit(18) ①" ②"	講義 演習 質疑	①" ②最新テクノロジーを知る
7週	Unit(18) ①" ②"	講義 演習 質疑	①" ②最新テクノロジーを知る
8週	Unit(18) ①" ②"	講義 演習 質疑	①" ②最新テクノロジーを知る
9週	第3回試験	講義 演習 質疑	①スキットの内容 ②テキストの内容
10週	Unit(20) ①" ②"	講義 演習 質疑	①英語で表現の幅を広げる ②原子力について考える
11週	Unit(20) ①" ②"	講義 演習 質疑	①英語で表現の幅を広げる ②原子力について考える
12週	Unit(20) ①" ②"	講義 演習 質疑	①英語で表現の幅を広げる ②原子力について考える
13週	Unit(20) ①" ②"	講義 演習 質疑	①英語で表現の幅を広げる ②原子力について考える
14週	Unit(22) ①" ②	講義 演習 質疑	" ②ナノテクノロジーについて考える
15週	Unit(22) ①" ②	講義 演習 質疑	" ②ナノテクノロジーについて考える
16週	Unit(22) "	講義 演習 質疑	" ②ナノテクノロジーについて考える
17週	Unit(22) "	講義 演習 質疑	" ②ナノテクノロジーについて考える
18週	レポート(20)または(22)のどちらかをテーマにしてレポートを書く	講義 演習 質疑	レポートにチャレンジする

訓練支援計画書（シラバス）

科名：各科共通

授業科目の区分		授業科目名	必修・選択	開講時期	単位	時間／週
訓練課程	専門課程	保健体育 I	選択	1・2期	2	2
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	保健体育					
担当教員		曜日・時限	教室・実習場		備考	
外部講師						

授業科目に対応する業界・仕事・技術

業界を問わず健康な心と体づくりは必須です。

授業科目の訓練目標

授業科目の目標	No	授業科目のポイント
各種スポーツをとおり、自己の体力維持増進に努め、またコミュニケーション能力を高め社会適応力を身に付けます。 保健では自立して保健管理ができるようにし、将来成人病予防に役立つ知識を学び、実行していくことを学びます。	①	体力測定を通じて自己の基礎体力について知っている。
	②	フィットネスを通じて自己の運動機能を高めることができる。
	③	スポーツを通じて自己の運動機能を高めることができる。
	④	スポーツを通じて社会性や協調性をもった行動ができる。
	⑤	健康的な生活を送るための知識について知っている。
	⑥	他者と強調し、安全第一に留意した運動ができる。
	⑦	運動（フィットネス、スポーツ等）を通じて心身ともに健康状態を維持、向上ができる。
	⑧	
	⑨	
	⑩	

授業科目受講に向けた助言

予備知識・技能技術	自己の健康状態、基礎体力、運動能力等について自己理解をしておいてください。
授業科目についての助言	健康的な生活を送るには心身の健康状態を維持・向上させることが重要となりますので、運動を通じて基礎体力と運動機能の向上を図るとともに、生活習慣病等の予防やストレスへの対処など健康的な生活を送るための知識を併せて習得します。自学自習はもちろん、わからないことはどんどん質問してください。
教科書および参考書	
授業科目の発展性	<div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">保健体育 I</div> — <div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">保健体育 II</div>

評価の割合

指標・評価割合	評価方法	試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	合計
	評価割合		80	20				
授業内容の理解度		30	10					
技能・技術の習得度								
コミュニケーション能力		10						
プレゼンテーション能力		10						
論理的な思考力・推論能力			10					
取り組む姿勢・意欲		20						
主体性・協調性	10							

週	授業の内容	授業方法	訓練課題 予習・復習
1週	オリエンテーション・WarmUP・ストレッチ・ レクリエーションゲーム (交流をはかる)	実技	学年全般の体力を見る。 両科目を通してコミュニケーションを図る
2週	WarmUP・ストレッチ 簡単な体力テスト(柔軟性・中跳び・ジャンプ他)	実技	中高時代のスポーツ歴等個人差をつかむ。
3週	WarmUP・ストレッチ・ランニング(校舎まわり) 体力作りパワートレーニング・課題の縄跳び	実技	現在の自己の体力を知り、無理せず 体力アップしていく。
4週	WarmUP・ストレッチ・パワートレーニング バスケット-パス(対人・チーム)ドリブルシュート	実技	バスケットは未経験者が居るので、 基礎的な練習をする。
5週	WarmUP・ストレッチ・パワートレーニングバスケット バスケット-基本練習・ゲーム(女子は縄跳び)	実技	同上ですが、女子は縄跳びを行う。
6週	WarmUP・ストレッチ・実技テスト(30"ショット) バスケット-(5対5)のリーグゲーム	実技	バスケットのルール等、予習してくる。 怪我のないようにゲームを行う。
7週	WarmUP・ストレッチ・ランニング バレーボール-パス(対人でオーバー・アンダー)	実技	バレーボールも経験の差があるので、 特にパスを中心に重点的に練習する。
8週	WarmUP・ストレッチ・ランニング バレーボール-パス・レシーブ(各チームで)	実技	最低でもゲームが成り立つ様にパス をつなぐ練習をする。
9週	WarmUP・ストレッチ・ランニング バレーボール-サーブとレシーブ実技テスト	実技	サーブとレシーブは、ボールの恐怖 があるので、ソフトなボールに変えて 練習する。
10週	WarmUP・ストレッチ・パワートレーニング バレーボール-ゲーム(リーグ)三段攻撃	実技	上級者は三段攻撃できる様にパス・ トス・アタックの練習をする。
11週	WarmUP・ストレッチ・ランニング 選択種目(バドミントン・卓球・テニス)	実技	好きな種目を選択し、楽しみながら 行う。
12週	WarmUP・ストレッチ・パワーとレーニンング 各種目ごとラリーが続けられるようにする。	実技	基本練習とルールを予習してくる。
13週	WarmUP・ストレッチ・パワートレーニング 各種目ごとにダブルスでゲームを行う。	実技	ゲームを行いながら、頭脳プレーが 出来る様にする。
14週	WarmUP・ストレッチ・パワートレーニング 各種目ごとにシングル(前半)ダブルス(後半)ゲーム	実技	ダブルスのコンビネーションを身に つける。
15週	WarmUP・ストレッチ・ランニング サッカー ドリブル・S字パス	実技	ミニサッカーなので、5対5で行う (女子はパワートレーニング)
16週	WarmUP・ストレッチ・ランニング・パワートレーニング サッカー S字パス・シュート・3分間ゲーム 保健:筋肉と体のしくみ	実技 講義	ケガのないように、パーソナル ファールを厳しくする。
17週	WarmUP・ストレッチ・ランニング 5分間ゲーム(リーグ)女子はストレッチ 保健:健康と生涯スポーツ	実技 講義	ルールを予習してくる。
18週	WarmUP・ストレッチ・ランニング・女子は同上 5分間ゲーム・トーナメント・実技テスト(ドリブル) 保健:理論テスト	実技 講義	ケガの予防にもなるので集中して ゲームをする。

訓練支援計画書（シラバス）

科名：各科共通

授業科目の区分		授業科目名	必修・選択	開講時期	単位	時間／週
訓練課程	専門課程	保健体育Ⅱ	選択	3・4期	2	2
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	保健体育					
担当教員		曜日・時限	教室・実習場		備考	
外部講師						

授業科目に対応する業界・仕事・技術

業界を問わず健康な心と体づくりは必須です。

授業科目の訓練目標（例）

授業科目の目標	No	授業科目のポイント
各種スポーツをとおり、自己の体力維持増進に努め、またコミュニケーション能力を高め社会適応力を身に付けます。保健では自立して保健管理ができるようにし、将来成人病予防に役立つ知識を学び、実行していくことを学びます。	①	バレーボールによる基礎体力の向上
	②	サッカーによる基礎体力の向上
	③	5分間ゲームによる基礎体力の向上
	④	
	⑤	
	⑥	
	⑦	
	⑧	
	⑨	
	⑩	

授業科目受講に向けた助言

予備知識・技能技術	自己の健康状態、基礎体力、運動能力等について自己理解をしておいてください。
授業科目についての助言	健康的な生活を送るには心身の健康状態を維持・向上させることが重要となりますので、運動を通じて基礎体力と運動機能の向上を図るとともに、生活習慣病等の予防やストレスへの対処など健康的な生活を送るための知識を併せて習得します。自学自習はもちろん、わからないことはどんどん質問してください。
教科書および参考書	
授業科目の発展性	<div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 5px;">保健体育Ⅰ</div> — <div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 5px;">保健体育Ⅱ</div>

評価の割合

指標・評価割合	評価方法	試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	合計
	評価割合		80	20				
授業内容の理解度		40	10					
技能・技術の習得度								
コミュニケーション能力		20						
プレゼンテーション能力		20						
論理的な思考力・推論能力			10					
取り組む姿勢・意欲								
主体性・協調性								

週	授業の内容	授業方法	訓練課題 予習・復習
1週	WarmUP・ストレッチ・パワートレーニング バレーボール-ゲーム (リーグ) 三段攻撃	実技	上級者は三段攻撃できる様にパス・トス・アタックの練習をする。
2週	WarmUP・ストレッチ・パワートレーニング バレーボール-ゲーム (リーグ) 三段攻撃	実技	上級者は三段攻撃できる様にパス・トス・アタックの練習をする。
3週	WarmUP・ストレッチ・ランニング 選択種目 (バトミントン・卓球・テニス)	実技	好きな種目を選択し、楽しみながら行う。
4週	WarmUP・ストレッチ・ランニング 選択種目 (バトミントン・卓球・テニス)	実技	好きな種目を選択し、楽しみながら行う。
5週	WarmUP・ストレッチ・パワーとレーニンング 各種目ごとラリーが続けられるようにする。	実技	基本練習とルールを予習してくる。
6週	WarmUP・ストレッチ・パワーとレーニンング 各種目ごとラリーが続けられるようにする。	実技	基本練習とルールを予習してくる。
7週	WarmUP・ストレッチ・パワートレーニング 各種目ごとにダブルスでゲームを行う。	実技	ゲームを行いながら、頭脳プレーが出来る様にする。
8週	WarmUP・ストレッチ・パワートレーニング 各種目ごとにダブルスでゲームを行う。	実技	ゲームを行いながら、頭脳プレーが出来る様にする。
9週	WarmUP・ストレッチ・パワートレーニング 各種目ごとにシングル (前半) ダブルス (後半) ゲーム	実技	ダブルスのコンビネーションを身につける。
10週	WarmUP・ストレッチ・パワートレーニング 各種目ごとにシングル (前半) ダブルス (後半) ゲーム	実技	ダブルスのコンビネーションを身につける。
11週	WarmUP・ストレッチ・ランニング サッカー ドリブル・S字パス	実技	ミニサッカーなので、5対5で行う (女子はパワートレーニング)
12週	WarmUP・ストレッチ・ランニング サッカー ドリブル・S字パス	実技	ミニサッカーなので、5対5で行う (女子はパワートレーニング)
13週	WarmUP・ストレッチ・ランニング・パワートレーニング サッカー S字パス・シュート・3分間ゲーム	実技	ケガのないように、パーソナルファールを厳しくする。
14週	WarmUP・ストレッチ・ランニング・パワートレーニング サッカー S字パス・シュート・3分間ゲーム	実技	ケガのないように、パーソナルファールを厳しくする。
15週	WarmUP・ストレッチ・ランニング 5分間ゲーム (リーグ) 女子はストレッチ	実技	ルールを予習してくる。
16週	WarmUP・ストレッチ・ランニング 5分間ゲーム (リーグ) 女子はストレッチ	実技	ルールを予習してくる。
17週	WarmUP・ストレッチ・ランニング・女子は同上 5分間ゲーム・トーナメント・実技テスト (ドリブル)	実技	ケガの予防にもなるので集中してゲームをする。
18週	WarmUP・ストレッチ・ランニング・女子は同上 5分間ゲーム・トーナメント・実技テスト (ドリブル)	実技	ケガの予防にもなるので集中してゲームをする。